

# 災害支援ナース活動レポート

平成 29 年 7 月 5 日に発生した北部豪雨では、福岡県からの派遣要請を受け、75 人の災害支援ナースを 2 泊 3 日で 7 月 15 日～31 日まで、派遣しました。その災害支援ナースの被災地での活動をレポートします。

## ■災害看護のポイント■

“見えない健康問題を予測”し、被災者の自立を目指して継続した看護を行う。

### 潜在的な感染症

- ノロウイルス
- インフルエンザ
- 肺炎・食中毒など

免疫力の低下

### 長引く避難生活

- 不眠・疲労
- 子どもの成長阻害
- 脱水
- 慢性疾患の増悪
- 生活不活発病
- 熱中症など

災害時要援者の増加

### 長引く避難生活

- 生活再建の目的が立たない
- 被災後の後片づけ等による外傷や打撲

心身の疲労蓄積

## 1 豪雨後の盛夏の中、出発

限られた情報をもとに、二次災害の危険性や被災者に必要な支援を予測して、自己完結型の支援をするための準備を整えた。



## 4 断水で困ったこと

水が流せないトイレは、匂いが充満する。自衛隊や他自治体の給水車の支援を受け、トイレを流せるようにした。



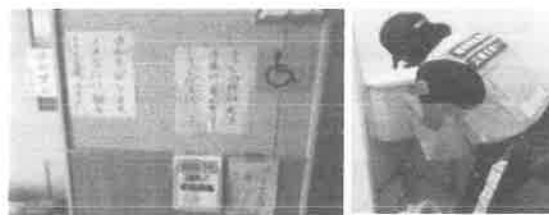
## 2 当たり前毎日が、当たり前でできなくなった

“被災者の自立”を目標に自治組織や支援団体と協力し健康管理面から避難所運営にかかわった。



## 5 慣れない仮設トイレ・見えない菌との闘い

被災者の人数に対して足りないトイレの数。トイレの清潔保持と使用後は、アルコール手指消毒剤の使用を促した。目盛を記し、使用料を確認しながら取り組んだ。



## 3 「衣・食・住」を整える

避難所で暮らす人々のいのちと暮らしを守るためにかかりつけ医や市町村保健師と連携した。



## 6 「二次的健康問題」の予防

災害発生からのフェーズや気候、地域住民の生活環境を考慮して、熱中症、脱水、食中毒、深部静脈血栓症、呼吸器関連疾患などを起こさないよう生活環境を整えた。



帰着。  
様々な思いが込み上げてきた。

無事に帰ってきた安堵感。活動を思い返すと、できたこと、できなかったことが見えてきた。送り出してくれた所属施設や家族、関係者の“見えないサポート”に心から感謝。

